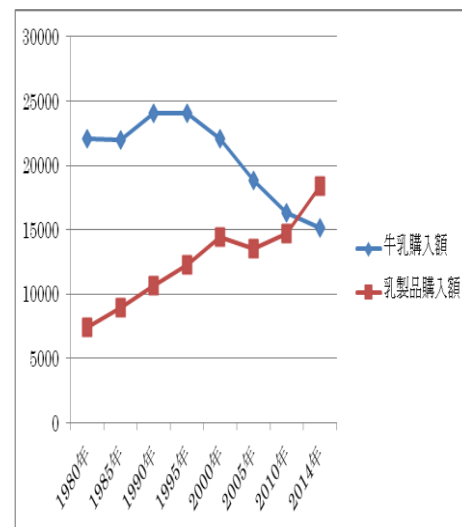


ぎゅう ニュース その1

生活クラブ生活協同組合 2016年1月発行

今回のニュースの発行の背景について

- ・生活クラブではこの秋「牛乳関連の品目を増やして 国内の契約酪農家からの引き取り原乳を増やす」ことをテーマとして新しい取組みを行いました。
- ・これまで飲用の牛乳は、「パスタライズド殺菌牛乳」の1品目だけでした。しかし、《国内の牛乳消費量が減少を続ける中で1品目のみの取り扱いでは契約酪農家を守れない》との問題意識から、現在の3種類（パス乳、ノホ乳、低脂肪乳）への品目増加を決定しました。
- ・以上より2015年10月6日の週から「ノンホモ牛乳」「低脂肪牛乳」が新しく仲間に入りました。また、従来は導入してこなかった「紙パックの製品」も先ほどの整理によって導入しました。
- ・これらを広く組合員全体の取組みとすべく、2015年9月21日～に飲用牛乳の関連資料を全組合員に配布し、同時に「私の提言」を募集しました。
- ・その際「提言」で寄せられた声を広く組合員にお伝えして、今後の飲用牛乳の利用の拡大につなげるものとなりました。このような経過で今回「ぎゅうニュース①」として発行します。



我が国の家計消費額の推移から牛乳と乳製品（1980年～）を抜粋

下の写真は地区学習会での「レネット」の様子です。



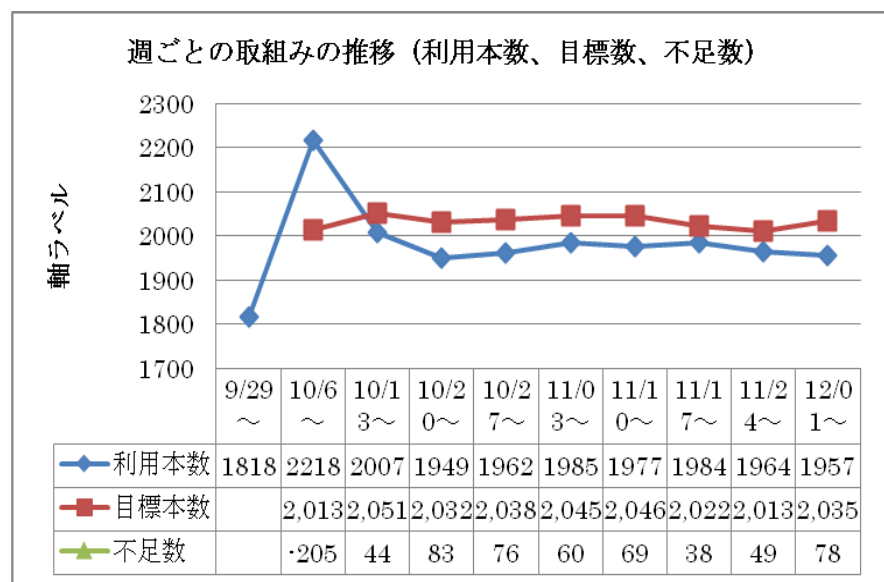
◆取組みの進捗の状況報告と今後について

- ①ピーク時の2015年11月17日～では新たに利用を始めた方が約80名～90名、増加した本数は180本あまりとなりました。（昨年秋の新規加入の方の利用数量を含みます）
- ②関西の6つの生活クラブでは、数量の前年比で112%を目標としました。目標達成にはあと約80本の上乗せが必要ですが、この数はこれから十分見通せる数です。
- ③以上のように、2015年10月からの利用の底上げにご協力いただいたことにより、奈良単協では目標の達成が見込める状況となりました。ご協力ありがとうございました。

◆「私の提言」の集約状況

- ①2015年9月21日に「飲用牛乳の品目拡大の組合員学習資料」の最終ページで「私の提言用紙」の記入と作成を呼びかけました。
- ②残念ながら提出頂いた組合員は77名（参加率で3.2%）という極めて厳しい結果となりました。提出用紙を単独用紙にせず、学習資料の最終ページにセットしたことで殆どの組合員の目に触れなかったためと考えられます。
- ③限られた枚数の「私の提言」ではありますが、寄せられた貴重な内容です。その主な意見と返答内容は本ニュースの裏面に掲載しました。（ただし2回に分けて掲載します。今回は第一回目です）
- ④今後に向けては、一人でも多くの組合員の参加（提出）が得られるように、意見集約の用紙は目立つように単独でセットし、かつ取組みの予告と集約の予定について複数回の告知を行うなどの改善をはかります。

目で見る飲用牛乳の利用動向



- ・取組み前の2015年9月29日～の週に比べ約160本ほど、率で8%～9%程度の本数の増加となっています。
- ・ノホと低脂肪の内訳でみると（約250本対約180本）となり、当初の想定に比べて「低脂肪タイプの製品」の利用が一般市場の購入実態に比べて低く出ています。
- ・私たちの低脂肪牛乳は、2003年に厚生省により新たに認定された「低脂肪牛乳表示」区分に該当する製品ですが、それ以前の「従来の加工乳や乳飲料」の印象が強く、異なる区分の製品であるとの告知が弱いと考えられます。

- ◆1月にもう一段の利用強化に向けて「定期登録利用者向け 特別価格」を予定します。
- ◆この秋に新たに加入された方、低脂肪牛乳の利用を見送ってこられた方の再度のお試し利用を呼びかけます。

飲用牛乳の多品目化提案に対する私の提言①

低脂肪を何とかビンで供給できないか努力してほしい。この機会に生活クラブのパス牛乳の優勢を何度も角度を変えて呼びかけ組合員に周知できるよう役職員で努力して下さい。職員の口からは何も聞いていません。

- ・ビンを細くしてどこでも立つようにする。 ・パック牛乳にする。 ・現在は収納場所の加減で利用できていない。
- ・1週間分を利用したいが、配達後4日の賞味期限なので無理なのです。低脂肪の他所からの購入量は1~2本
- ・配達日当日の朝の分が消費期限の点から買い足しています。あと1日消費期限が延びればもう1本たのめるのですが。
- ・他の飲料品を安易に増やさず、基本の食品を大切に取組む姿勢を大事にしてほしい。ノホモは近くで売っていない
- ・カスピ海ヨーグルトはパス殺菌で作れるのなら、その情報と間違えない作り方を広報してほしい
- ・日持ちに関する情報、(配達後の管理を含めて)提供を十分行ってほしい。
- ・今週から1本登録しました。 ・余剰の脂肪でバターをつくと聞きましたが、一定のバランスは必要かと思います。そのあたりの情報提供も必要だと感じました。ノホモってほのかに甘いんですね 飲み比べて分かりました。
- ・大手スーパーなどで販売されている牛乳の中身や酪農家の現状を生活クラブの産地と対比させて情報提供する。情報量が多すぎると目を通さないののでポイントを絞って紙面を作っていく。牛乳の中身、容器、資料、現場の環境などを対比させる。届いてからの消費期限が少ないことの理由を丁寧に説明する。
- ・容量の多様化を考えてほしい。2本はいらないが、1.5本なら利用できそうと思うから。
- ・やはり次の配送まで半分の期間で消費期限が来てしまうのが最大の悩み。バターの利用は考えてみたいと思います。
- ・個々の家庭の好みもあり、今回の多品目化は賛成です。
- ・まだ利用していない組合員に対して市販の牛乳との違いを知ってもらう。この品質で生活クラブの価格以下では買えないことを知らせる。
- ・牛乳を使つての料理や デザートの提案などを強めてはどうでしょうか。子どもが社会人になったから牛乳の利用はできていない。
- ・残留放射能の不安から現在はクラブの牛乳の利用はしていない。
- ・日持ち情報の強化 提携酪農家に関する情報発信の強化 今まではあまり内容を考えてこなかったが、今回の資料などで学び 利用を検討してみたい。 ノホモは知識がなくて利用はなかった
- ・現在のパス牛乳の日持ちを長くすることはできませんか。牛乳の配達が週に2回あれば利用本数を増やせるのに。 今後の利用の検討についてはお試してからでないといけない
- ・持続可能な国内の酪農の生産基盤のため、私たちが購入し、食べることで支援になるということを このことをしっかり伝えられる記事等を作り広報してほしい ノホモは市販ではあまり見かけないのでこれまで利用の機会はなかった
- ・牛乳に関してでなく、取り扱い品目のバリエーションを強めることが購買引き上げにつながると思います。我が家のように夫婦2人の世帯では1000mlの要領は多すぎます。また消費期限も長いほうが助かります。 我が家では牛乳を飲まないなので利用はありません
- ・あともう二日ほど日持ちするなら(週間3本は飲むので)利用本数を増やせます。。他団体でのノホモ利用は2本程度
- ・バターが好きなのでできるだけ低価格で安定して買えるようにしてほしい。
- ・学校給食での「ひきあい等」を強めてはどうでしょうか。トータルで地域の評価が高まり 結果利用者も増やせると思います。学校の牛乳を飲んでくる子どもたちはやや不安な感じなので。

飲用牛乳の多品目化提案に対する私の提言②

- ・牛乳フェスタ 2012 に参加し、頂いたレシピは家でも生かしています。新品目を活用した料理学習会が増えると、自然と活用してもらえるのではと思います。娘が産地見学に行ったことで一層愛着を感じ、購入の動機にもなっていると思います。
- ・意味も内容も分かりますが、今回は少々難しい内容もあり、もう少し資料の工夫などが必要なように思います。ガイダンス的な内容もあればより分かりやすい。このおいしい牛乳が今後も長く続くための大切な取り組みであると思いました。
- ・消費期限の問題が解決できれば 利用を増やしたい。
- ・ビンは扱いづらい、紙パックにしてほしい。 現在よつばのノンホモを利用している。
- ・バター の安定供給に期待している。バターの取り扱いサイクル・おすすめ情報を強めてほしい。
- ・ビンがかさばるのでビンの形状をコンパクトにするか、開栓後横置きできる道具などが求められるのではないか。
- ・今まで他店舗等でノンホモや低脂肪乳を購入されている組合員に対する呼びかけに期待したい。取組みの趣旨に賛同して共に取り組んでくれると嬉しい。
- ・多品目化で選択肢が増え良いことだと思います。
- ・放射能検査の下限値をもっと引き下げてほしい。飼料問題、特に遺伝子組み換え問題の現状のレポートなど、取組みの全体像や問題の構図に迫ったレポートなどを期待したい。
- ・牛乳を活用した料理レシピをさらに強化してほしい。多様な食べ方の提案が求められている時代と思う。 飲むだけでなく作りたいと思わせる企画を要望します。 今回の組合員学習資料は保存版で必要な時に振り返られるので大変好ましいものと感じました。低脂肪牛乳の位置づけの中で「これからの食生活の中にも必要であると考えられる」との具体的な内容を教えてほしい。バターが欲しくて低脂肪牛乳が生まれたのでしょうか
- ・酪農家の現場をより深く詳しく知りたいと思います。厳しい現場を知って、この牛乳の素晴らしい栄養を再認識したい。さらに情報提供の強化を願います。
- ・子どもが牛乳アレルギーで、「液だれ」は子どもにとって問題。ですので「液だれ」しにくい紙パックを増やしたい。消費量拡大には個人消費だけではなく 学校給食など外部販売の強化も必要では。牛乳アレルギーの家庭にとって 牛乳レシピの紹介などの際に配慮があると嬉しい。
- ・グループでの利用のため 持ち帰りの限界がある。家庭消費は 6 本あるが、3 本が限度。また消費期限の関係で 日をずらして他生協から 3 本を利用
- ・より一層の情報提供を求める。(フタ情報、知り知らせるコーナー新設など) 牛乳関係は基本好まないのでも今後も利用拡大に貢献できない
- ・牛乳類が健康上好ましくない食品であるという見解もあり、私は積極的には牛乳を利用していません。「健康で安心できる牛乳はとてありがたいと感謝しています。沢山は利用できないが、可能な限り利用したい。生産者を支えるという点からはさらに生産者引き取り価格を引き上げていくことも一つの考え方であると思います。